

第3回 区民協働のあり方検討会議
議事概要

日時・場所

- 1 日時 平成29年8月3日(木) 午後6時30分～午後9時00分
- 2 場所 ココネリ3階 区民・産業プラザ 研修室2

次第

- 1 開会
- 2 案件
(1) 各活動主体が協働する魅力・可能性・課題について

配付資料

- 1 区民協働のあり方検討会議 委員名簿・座席表 ... 資料1
- 2 活動主体同士の「新しい協働」の魅力と可能性
(第2回検討会議のまとめ) ... 資料2
- 3 活動主体同士の「新しい協働」の魅力と可能性(表) ... 資料3
- 4 区民協働のあり方検討議の進め方 ... 資料4
- 5 練馬区区民との協働指針 ... 参考1
- 6 みどりの風吹くまちビジョン ... 参考2
- 7 みどりの風吹くまちビジョン(概要版) ... 参考3
- 8 区政改革計画 ... 参考4
- 9 協働の形態とその意味合い(佐藤座長資料) ... 参考5

出席委員(10名)

佐藤真久委員、広石拓司委員、武田康宏委員、高原洋子委員、尾原亮子委員、
三谷ますみ委員、村木善郎委員、吉田美穂子委員、美玉典子委員、田中一宏委員

欠席委員(1名)

加藤政春委員

区出席者

専門調査員、協働推進課長

事務局

地域文化部 協働推進課

傍聴者

0名

議事概要

1 開会

座長

- ・第3回区民協働のあり方検討会議を開催する。

2 案件

(1) 各活動主体が協働する魅力・可能性・課題について

事務局

- ・前回の会議のワーク2をまとめたものとして、資料2と資料3を作成した。確認をお願いします。
- ・本日取り組むワーク3およびワーク4について、資料4で説明する。

- 資料4の説明

座長

- ・資料3の前回の議論を踏まえた上で、各委員の活動をベースに、自分の団体が持っている「課題」を、他の活動主体の持っている「長所」を使って、解決していく。他の団体と関わることのメリットを考えて、「未来新聞」として記事を作成してもらいたい。
- ・未来新聞の日付けは、5年後の2022年8月3日水曜日とする。
- ・各委員が2022年8月3日に「新聞記事にとり上げられたら良いな」ということを想像しながら、記事を作成してもらいたい。
- ・質疑に移る
- 特になし

- ワークショップ -

座長

- ・委員ごとに、作成した新聞の発表をお願いします。
- ・まずは、D委員からお願いします。

D委員

- ・タイトルは「回覧板なんかいない」、サブタイトルは「加入者減少に悩むある町会の実情」という新聞を作成した。
- ・協働の相手は、情報関連企業を退職し、高齢者の方のデジタル化社会に対する支援をしているNPOである。

- ・内容は、町内の紙媒体の回覧板を廃止し、実名でのSNSと町会のホームページを作成する。町会員には、町会の情報を伝達するため、SNSに登録してもらうことを条件とする。これにより、まずは、バーチャルな世界を介して、町会員同士が知り合いになり、その後、町の中で会った時に、挨拶をするきっかけをつくる。
 - ・また、町会からの情報を見た人は、必ず「いいね」を押すことをルールとし、「いいね」が押されていることで安否確認も行う。
 - ・なお、高齢者のデジタルデバインドへの対応が課題であるため、講習会を行うことでフォローしていく。
 - ・一方、若い世代は、デジタル機器には慣れている。町内の会議等を、ネットを通じて行うことで、どこにいても参加できるようになる。できるだけ参加をしてもらい、リアルな現場での参加と運営も、徐々に若い世代にシフトしていく。
 - ・若い世代は「町会は自分たちに何をしてくれるのか」という、お客様意識が強い。そうではなく、若い世代が核となり、地域のために何ができるかという意識を持ってもらう狙いもある。
 - ・また、高齢者にとっては、若い世代との顔の見える関係ができるため、日常的なちょっとした困りごとにも対応できるようになれば良いと考え、記事を作成した。
- 座長
- ・各委員は、新聞記事を読んで「良かったと思うこと」、「こうしたこともできるよと思うこと」を付箋に書き出し、新聞の下に貼ってもらいたい。
 - ・つぎに、I委員から発表をお願いする。
- I委員
- ・タイトルは「練馬から孤独死が消えた」、サブタイトルは「教えます！練馬の“スマートおせっかい制度”、=他の22区も導入検討=」という新聞を作成した。
 - ・高齢者の見守りをNPOの活動と行政サービスとのコラボレーションにより行うものがある。
 - ・一人暮らしの高齢者をNPOのスタッフが訪問し、NPOの活動の情報を提供しながら、見守りも行う。その際、個人情報の壁があるが、コミュニケーションを十分取り、日常会話の中から、通っている病院や、食事の状況等、様々な情報を把握していく。一見、「おせっかい」ではあるが、「あまり重くないおせっかい」を目指している。行政サービスの一つとして、高齢者とNPOがつながるが、相手の求めていることは個々に違いがあるため、NPOが持つフレキシブルな特性を活かして、きめ細やかに対応していく。
 - ・この取り組みにより、練馬から孤独死が消えたということを想像して、記事を作成した。
- 座長
- ・つぎに、E委員から発表をお願いする。

E 委員

- ・タイトルは「夏休み 地域で子育てメッセに参加しよう」、サブタイトルは「地区区民館で10の子育て団体が応援イベントを開催」という新聞を作成した。
- ・地域では、様々な団体が活動している。今回は、地域で子育てを応援するため、地区区民館の運営委員会が仕掛け、子育てに特化した10団体を集めて、メッセを開催する。一日ずつ、別のNPOがイベントを行う。このイベントを通じて、地域も子育て中の親に、「子育ては一人じゃないよ」、「地域も応援しているよ」ということが見えるような形で伝えていく。NPOにとっては、活動の場を得ることにもなり、運営委員会としても、新たな企画にもつながる。また、参加した親にとっては、地域の中で、新たに足を運べる場所にもなる。
- ・今回は、子育てを切り口に実施したが、高齢者や障害者等ジャンルを変えることで、様々な団体の発表や活動の場につながる。地域のコミュニティの核として、地区区民館がさらに機能できると考え、記事を作成した。

座長

- ・つぎに、G委員に発表をお願いします。

G 委員

- ・タイトルは「長寿健康社会に向けて進むコラボ」、サブタイトルは「農家・AI研究機関・医療者が認知症改善効果を実験」という新聞を作成した。
- ・認知症ケアカフェを開催し、ハーブ等の香りのある野菜の香りを嗅ぐ。認知症や障害のある方にケアカフェに来てもらい、様々な団体が連携して5年前から研究してきた成果の一端を発表する事業である。
- ・サラダ等の料理には、商店会のシェフも参加して、献立を立てる。AIを活用することで、一番効能の高い時期に野菜を収穫する。また、24時間、温度管理等もできる。練馬区は23区で緑が一番多い農業が特色の区でもあるので、そのことも念頭において考えた。
- ・最後は医療機関と連携し、具体的なデータを集めて、効果を実証しながら、長寿・健康社会の実現しようと考え、記事を作成した。

座長

- ・つぎに、K委員に発表をお願いします。

K 委員

- ・タイトルは「社会とつながる寺子屋プロジェクト」、サブタイトルは『練馬区内の小中学校で「子ども達が、社会で生きるために必要な体験・経験」を、地域の力で実現!』という新聞を作成した。
- ・子ども達は、様々な情報に触れることができるにも関わらず、将来の選択肢を考える際に、先輩達の貴重な情報ではなく、インターネットの情報にしか頼れない。昔は、地縁や地域の中で触れ合う人達の経験談等を、将来の選択肢の一つにして

いた。それが期待しにくい現在の取り組みとして、NPO、町会・自治会、保護者等が学校に出向き、自分の貴重な経験等を語り、子ども達は、その話を、将来を考える時の参考としていく制度を導入する。今回、その制度ができたことを想像し、広報するための記事を作成した。

座長

- ・最後に、H委員から発表をお願いします。

H委員

- ・タイトルは「『わた仕事』が生んだ新しいご縁」、サブタイトルは「A地区福祉施設・地区区民館・町会・学校による新しいコラボ!」という新聞を作成した。
- ・NPOは拠点や活動の場所が無い。また、自分たちの活動を広げていく術を持っていない。その部分を他の活動主体に補ってもらうという、サクセスストーリーを考えた。
- ・A地区に障害者を支援する福祉施設がある。また、地区区民館があり、手工芸やコーラス等、様々なサークルが活動している。さらに、町会・自治会があり、大きなお祭りを行っている。こうした団体が連携をする。
- ・綿の種を蒔き、育て、収穫をして、糸にする。それから、ミサンガやストラップを作成する。長い工程の中で、たくさんの仕事をシェアできる。
- ・福祉施設では、種を蒔き、収穫するまでの工程を担当してもらう。綿ができれば、地区区民館のサークルの方に糸にしてもらい、染める工程まで担当してもらう。糸になったら、福祉施設に戻し、製品を作る。作った製品は、町会・自治会のお祭りで販売する。その製品を子ども達が買い、話題となる。話題となることで学校で、福祉施設や地区区民館に作業工程の見学に行く。そこで、障害のある方や地区区民館でサークル活動をしている方と知り合いになり、障害のある方への理解や、町の中で会った時に挨拶をするようになる。
- ・何もなければ、つながることのない人達が、綿を作るという、つながりを生み出す仕掛けによって知り合うことで、やさしいまちづくりができればと思い、記事を作成した。

座長

- ・以上で、発表は終了する。
- ・今後の予定について、事務局よりお願いします。

事務局

- ・本日作成していただいた新聞記事を事務局で整理する。
- ・今日の予定としては、ワーク4として、作成した壁新聞の内容を実現するに当たっての「困難なこと」を考え、付箋または紙に書き出すという作業があった。時間が無くなったので、次回の9月5日の開催までに、各委員でお考えいただきたい。後日、メール等で資料ものをお送りするので、作業をお願いします。

座長

- ・本日作成した新聞は、「未来新聞」と呼ばれており、デンマークで始まった取り組みである。この国では様々な教育施策が、未来新聞から始まっている場合がある。今日、作成していただいた新聞も、できるだけ活かしていきたい。
- ・最後に副座長より、コメントをお願いします。

A副座長

- ・自分の新聞を作る時は苦労したが、他の委員が作成した記事を読むのは非常に楽しかった。刺激にもなった。

座長

- ・以上で、第3回区民協働のあり方検討会議を終了する。